

# 計画を推進するための横断的な視点

## ■計画推進の体制 ～町民と行政が共に歩むまちづくり～

町民一人ひとりがまちづくりの主役となり、地域課題の解決に向けて活躍することはもちろん、地域コミュニティをはじめとする様々な活動団体、近隣自治体など、多様な主体との連携をより強固なものとし、町民ニーズに寄り添いながら、より効率的で効果的な行政運営を目指します。

また、国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの達成や、革新技術の活用による「超スマート社会」Society5.0の実現に向けた対応など、時代の潮流を意識した取組みが重要です。

### 1. 町と地域のパートナーシップの構築

まちづくりは行政のみならず、町民や地域との協働・共生が必要不可欠であり、適切な情報の共有や良好なパートナーシップを築き上げる必要があります。

広報誌やケーブルテレビ、ホームページ、SNSなど、多様な媒体により町の取組みの現状を適時適切に公開するとともに、地域が抱える課題についての的確に情報収集するため、様々な広聴の機会を創出する必要があります。

#### 〔実施する主な事業〕

- \*地区振興補助金交付事業
- \*元気な地区づくり応援事業

- \*地域コミュニティパートナーシップ構築事業

### 2. 町の未来を創造する主役づくり

町民をはじめ、町に関係するすべての人が、それぞれの役割や町との関わりを意識しながら、まちづくりのプレイヤーとして活躍することができる仕組みを構築する必要があります。

住民一人ひとりが自発的に活動し、地域課題を解決し、特色あるまちづくりを展開するためには、まちづくり人材や団体の育成、活動に対する支援などに努めるとともに、関係機関との連携・協力を強化するためのネットワークづくりが必要です。

また、町民が積極的に町政に参画し、自らの発想や提案を実現することができるまちづくりの推進を図ります。

#### 〔実施する主な事業〕

- \*地域のささえあい推進事業【再掲】



### 3. みんなで支える社会の仕組みづくり

少子高齢化やライフスタイルの多様化にともない、人のつながりが希薄化するとともに、地域活動においては担い手の確保が困難となっており、コミュニティ機能の弱体化や組織の存続が危ぶまれています。

世代や分野を超えたさまざまな主体が、自分らしく暮らしていくことができるよう、自助・共助・公助の役割を明確にし、互いに互いを補い合う地域共生社会を実現することで、様々な取組みが、より効果的に作用する支え合いの好循環を築き上げます。

〔実施する主な事業〕

\*人権啓発事業

\*男女共同参画推進事業

### 4. 持続可能な開発目標（SDGs）に共感したまちづくり

町の将来像の実現にあたっては、国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの理念に共感し、将来世代が希望を持ち続けることができるまちづくりを進めていく必要があります。

町においても経済、社会、環境のバランスを図る統合的な取組みであるSDGsの達成を意識しながら、各施策に取り組んでいく必要があります。

〔実施する主な事業〕

\* SDGs 普及啓発事業

### 5. Society5.0 社会の構築に向けた高度情報化と先端技術の有効活用

AIやロボット、IoT等の革新的技術の活用により、町民生活に様々な恩恵を与えることが期待されるSociety5.0時代に対応することが求められます。

医療・介護、農業、ものづくり、交通、防災、エネルギーなど、あらゆる産業や社会生活に先端技術を取り入れ、新たなアイデアから新たな価値が創造されることにより、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる社会の実現を目指していきます。

また、地域の企業や自治体をはじめ、様々な主体が個別のニーズに応じて独自の5Gシステムを柔軟に構築でき、地域課題の解決につなげていくことが期待される「ローカル5G」の活用など、スマートな社会づくりを推進するための基盤整備についても研究していくことが必要です。

〔実施する主な事業〕

\* Society5.0 社会構築事業【再掲】